

企画展「石の名は？」

県立博物館

身近に使われている石の名前は？

令和3年12月25日（土）から令和4年2月20日（日）まで、博物館本館1階企画展示室で「石の名は？」を開催しています。



【企画展ポスター（表）】

展示では、街中で使われている岩石を写真と標本で紹介し、その見分けるポイントを解説します。また、企画展開催期間中には、学芸主事による15分間程度のミュージアムトーク（展示解説）を行います。トーク後には、実際に博物館周辺で使われている石材を、歩き回って観察します。普段は



【花崗岩で作られた石碑】

私たち人間は、大昔からいろいろな岩石を、道具や建物の材料として利用してきました。様々な人工素材があふれる現代でも、天然の岩石は身近なところでたくさん使われています。

今回の企画展では、私たちが生活の中で何気なく接している岩石の特徴と、その見分け方を知ることができます。

あまり気にすることのない、街角にある岩石との出会いをお楽しみください。さらに1月16日（日）には、「磨いて作る宝の石」と題して、岩石を研磨剤でピカピカに磨き、自分だけの宝の石を製作するワークショップを実施します。

どんな石が見られるの？

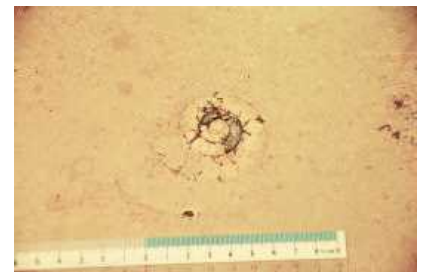
それでは、展示の一部を紹介しましょう。

南九州には、過去の火山噴火により、巨大火砕流が発生して大地が陥没してできた、カルデラという地形が4つもあります。そのため鹿児島県には、火砕流が堆積した後に自身の熱で溶けて固まった、「溶結凝灰岩」という岩石が広く分布しています。県内で見られる溶結凝灰岩は種類も多く、それぞれ採石場所の地名を冠して呼ばれ、親しまれてきました。この岩石は加工しやすいことから、古くから石垣や建物の材料として使われてきました。



【溶結凝灰岩で作られた石橋】

また、現代の建物でも天然の岩石が多く使われており、建物の内壁や床には、「石灰岩」が使われていることがあります。石灰岩は、サンゴなど過去の生物が死後に堆積してできたものがあり、それらの化石を含んでいることがあります。



【化石を含む石灰岩の床】

さらに、現代ではコンクリートをはじめとする、人工的に作られた石材も多用されており、なかには鹿児島県にたくさんある「シラス」を活用して作られたものもあります。

この企画展をとおして、私たちはさまざまな岩石を生活の中で利用していることを学んでいただけたと思います。

最後に、博物館では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、入館時の検温や手指の消毒、楽しい実験、科学教室、天文教室等での利用者カードの記入をお願いしています。皆様の御理解、御協力をお願いします。